



**(1) 「アナウンサーによる面接講習」「個人面接練習」「集団討論練習」について**

- 「アナウンサーによる面接講習」 申込者 3年生 12人
- 「個人面接練習」 申込者 3年生 12人 (延 28人)
- 「集団討論練習」 申込者 3年生 9人

**(2) 「合格体験記」について**

- 教員採用試験，教育系大学院入試について4年生7人，卒業生2人が執筆してくれました。
- 3月に発行される「教職課程年報」に掲載されます。
- 大変役に立つ内容なので是非ご一読を。

★ 教職課程センター小金井相談室では、3月末をもって相談指導員が交代します。この「こがねい」は、各種イベントや教員採用試験等の合格状況だけでなく、皆さんへのメッセージや紙上講習に重点を置いて発行してきました。5年間のご愛読ありがとうございました。

★ 私が書く「こがねい」も今回で最終回となります。そこで今回は、5年間の集大成として「面接試験合格直前チェック」以外の部分を私から皆さんへのメッセージ「教員経験者の独り言」集としました。一つでも参考になることがあれば幸いです。

**【教員経験者の独り言】集**

**① 学力よりも人間力を！ できる子より優しい子を育てよう！**

学校教育で卑怯な人間を育ててはいけぬ。残忍な人間を育ててはいけぬ。人間はフェアであるべし。人間は優しくあるべし。フェアであることを学ぶ最良の機会がスポーツ。今年は冬季オリンピックの年であるが、悪どいことをして試合に勝っても全く価値がない。また、残念ながら SNS 上で誹謗中傷されたことが原因で自死に至った不幸な事件が後を絶たない。意見を言うのは構わないが、キチンと自分の名を名乗らなければ卑怯である。自分に火の粉がかからないように隠れながら相手を叩くのは卑怯の極み。人生いつでも正々堂々と闘ってほしい。

明治→大正→昭和→平成→令和と、企業や世界が求める「できる子」を育てることが学校教育の大きな目的であった。確かに学力も大事だが、その前に人間力向上であろう。教育基本法に「(教育の目的) 第1条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」と書かれている意味は極めて大きい。世の中を眺めてみると、いわゆる偏差値は高いが平気で悪さをする人間が増えたような気がする。教育の目的は第一に人間教育、第二に学力向上と考える。

**② 教員は、生徒の伴走者**

生徒は、人生という道を走るランナー。教員は、生徒と一緒に走りながら支援する伴走者。とにかく一緒に走ることが大切。生徒が苦しければ教員も苦しい。生徒が喜ばば教員も嬉しい。いつもマラソンの小出監督の言葉を思い出す。「指導は、優しさ愛情。自分の子どもだと思って育てないとダメなんだよ。」そのためには、教員が教え込まないこと。生徒が自立して一人で走れるようにすることが大切。それには生徒の納得が不可欠。「そこに愛はあるんか？」

**③ 日本の職人**

昔も今も、日本には「プロの職人」と呼ばれる専門性の高い人たちが大勢いる。料理、刃物、インスタント麺、部品工場、液晶、家電、新幹線・リニアモーターカー、ハイブリッドカー・電気自動車、建築・土木、アニメなどのものづくり職人。デパートやスーパーなどの販売職人、CA、タクシー、ホテルや旅館などのおもてなし職人、IT企業などの情報職人、芸術家・俳優・演出家・映画監督、作曲家・作詞家・歌手、ポカロP等、あげればキリがない。どの職人

も自分の仕事に誇りをもっていて、自分が納得できるまで突き詰める。そこに妥協はない。教員も職人であってほしいと思う。特に、授業についてはほとんど突き詰めてほしい。完璧な授業などない。毎年生徒が変わるからだ。去年の生徒にはいい授業であっても、今年の生徒にとってもいい授業とは限らない。どんな生徒にとってもいい授業を目指すためには研修が不可欠である。研修とは、研究と修養である。教師という職種は、新採から定年まで研修をほとんどしなくても何とか生活できるように見える。一生、自分の恩師の教え方をまねているだけで給料がもらえる。だから怖いのだ。校内研修も重要だが、都数研や都中数などの研究会に参加すれば、広い視野からの研修ができる。どの都道府県にも必ず各校種、各教科の研究会がある。それに参加するかどうかは、君たち次第である。君たちには、是非とも意欲的に研修してほしいと願う。小金井キャンパスから毎年学生が数名都数研に参加していることを誇りに思う。

#### ④ 教員の働き方改革

昨今、日本中の教員が過労死レベルの超過勤務を行っていることが話題になっているが、残念ながら一向に改善されてはいない。私が教員だった頃には、「教員定数を変えて教員を増やせ」という運動があったが、増えたのは英語・数学の習熟度別加配と保体・家庭の少人数加配程度である。それから40年。教員の仕事は指数関数的に増えたのに教員定数も手当もほとんど変わらない。給特法に基づく超過勤務手当無支給も変わらぬまま。これでは、先生方が倒れてしまう。私の経験から言えば、教員という職種には、「生徒のためなら多少の超過勤務や自宅での業務も仕方ない」と受け止める優しい人たちがとつても多い。極論を言えば、その人たちの善意によって日本の学校教育が支えられてきたとも言える。しかし、この間の爆発的な業務の増加によって流石の先生方も悲鳴を上げている。その表れが、文科省が行った「#教師のバトン」である。文科省の思惑に反して、そこに日本中の先生方から悲鳴が届いた。本当に気の毒なことである。あの温和な先生方が声を上げたということが大きい。埼玉県の小学校の先生は、教員の超過勤務に関して訴訟を起こした。願わくは、業務が減って先生方が元気になってほしいものである。そこで私は、「教員を増やすのではなく、教員の業務を減らす」ことを提案したい。具体的には、教員を校務分掌の業務から解放するのである。教務部や進路指導部など、担任以外の校務分掌の仕事に教員免許状は不要である。つまり、事務系の職員が担当できるのである。私は、大学に来て初めてこのことに気付いた。大学では、教務・学務・キャリアセンター・広報などは事務系の皆さんが担当している。それで十分な成果が出ている。その分、大学教員は授業や研究に没頭できている。あくまで教員の本務は授業である。上記の通り、授業の職人になるべく研修が重要である。しかし残念ながら現状は、研修意欲の高い先生であっても、校務分掌に追われて研修する時間がなかなか取れないことが多いと聞く。このことは私自身も経験したことである。教務主任のときは、高校入試の時期になるとその実施要項や採点業務の計画や立案などの合間に授業に行っていた。生徒指導部のときは、問題行動を起こした生徒への聞き取りや臨時会議で昼休みさえなかった。これでは本末転倒である。これからは、教員ではなく事務職員を増やし、大学のように校務分掌を教員の業務から切り離すことが急務と考える。進路に関する調査書や生徒指導要録などは生徒のことをよく知っている担任が書くが、それ以外の事務的な書類作成はむしろ事務職員の方が上手だし効率がよい。雇用に当たっては退職者や経験者を雇ってもよい。現在教育委員会が行っているような「校務支援員」を1人増やす程度では焼け石に水である。校務分掌ごとに任せられるような事務職員集団が必要である。1日も早く先生方が「教員免許状の不要な仕事は致しません！」と胸を張って言える日が来ることを期待する。

#### ⑤ 日本の数学教育に思う

日本の中学校高校の数学教育は、問題集等の問題を解けることに力点が置かれている。授業が理解できても定期考査で問題が解けなければ成績は上がらない。さらに入試では、問題が解けるだけでなく決められた時間内で解くという縛りが加わる。その過程で数学嫌いが激増している気がする。日本の数学教育は、体育で跳び箱を跳ぶのに似ていると思う。跳び箱を跳べないと困るのは体育系に進む人くらいで、多くの人は跳び箱が跳べなくても別に人生で困らない。ただ、周りの人が跳べるから跳べないと辛くなる。数学も同じで、もし数学の目的が問題を解くことにあるなら跳び箱と同じで、問題が解けなくても別に人生で困らない。ただ、周りの人が解けるから、解けないと辛くなる。ひいては、入試に出るから困る。実際、入試に必要ななら数学は勉強したくないという人は多い。その原因は、問題を解くことに力点を置いた数学教育だからではないだろうか。発想の面白さや数学のよさなどに力点を置いていればここまで数学嫌いが増えてはいなかったのではないかと。例えば、高校入試では50分間で7~9割を正解しなければ合格しない。まさに時間との闘いである。大学入学共通テストも同様である。英語のような長文の問題文を読んでじっくり考えているようでは時間切れアウトになる。解答できても時間がかかれば不合格。そのため、公式をたくさん暗記していた方が合格しやすい。高校入試ではじっくり考えるより、「 $y = ax^2$ 上の2点A( $p, ap^2$ ), B( $q, aq^2$ )を通る直線の式は、 $y = a(p+q)x - apq$ だと覚えておく方が速い。だから覚えておけ！」となる。訓練以外の何物でもないと感じる。入試特訓とはよく言ったものである。理想論かもしれないが、せめて授業では数学的な見方・考え方を重視して、「何故なんだろう??」「一般の場合はどうなる??」などとじっくり考えさせる場面が多くあってほしいものである。私自身も昔大学入試向けに実施した講習などでこのような指導を行った経験がある。自身の反省を込めて、そう痛感する今日この頃である。

## 【面接試験合格直前チェック】

### 《個人面接》「個人面接極意書」より

- ① 身だしなみはOK? 髪, スーツ, ネクタイ, 持ち物 (受験票, 複数の筆記用具・消しゴム), 靴, 時計
- ② 集合時刻, 場所の確認はしましたか? 30分前には試験会場に到着するようにしましょう。
- ③ 当日, 試験会場の係員を相手に大声で挨拶できますか? (声出しの練習)
- ④ 控室では何をしますか?
  - ア 「**志望の動機**」で答える**キーワード2つを確認する**。文章化しないで, その場で考えながら答えます。
  - イ 面接官に伝えたい「**自分のウリ**」を**2つ用意する**。面接中のどこかで(できれば前半で)必ず伝えること。
  - ウ 頭の中で**ノックから着席までをシミュレーション**する。最初と最後の礼は45度。途中の礼は30度。
  - エ 面接が**うまくいっている様子**をイメージ化する。これは, オリンピック選手も必ず行っています。
- ⑤ ノックして入室するときに**大声で「失礼します！」**と言えますか? それが, この日最大の声量となります。着席したら姿勢を確認します。足首, ひざ, 腰が90度。**座高を1cmでも高く**(ファイティングポーズ)。
- ⑥ 最初に自分の名前を大声で言えますか?自分が緊張していると思ったら, 一層大声で名前を言います。
- ⑦ 緊張していますか? 面接官も失敗してはいけないと緊張しているのです。緊張は, お互いさまです。
- ⑧ 「ハイ, ..です」という答え方ですか? **質問されたこと以外は答えない**こと。答えが長くなる原因です。
- ⑨ やり取りは円滑ですか?面接試験は口頭試問ではなく, 会話です。**彼女, 彼氏と話しているつもりで**。
- ⑩ **面接がテニスのラリーになっていますか?**1つのテーマで何度も質問と答えのラリーをしてください。
- ⑪ **最初の質問(サーブ)に対してインテックスだけで答えていますか?**「ハイ。〇〇は2つあります。1つ目は.....」という答え方をしましょう。次に内容を聞かれてから, その内容を答えるようにします。
- ⑫ 面接中に**必ず2~3回は聞き返していますか?** 聞き返すのは会話になっている証です。
  - ア 質問の意味が分からない。→ (例)「今の質問は, 〇〇ということでしょうか?」(確認)
  - イ 答える範囲が分からない。→ (例)「授業についてお答えすればよろしいのでしょうか?」(確認)
  - ウ 少し長めに説明したい。→ (例)「例を挙げてよろしいでしょうか?」(許諾)
  - エ 答えがすぐに見付からない。→ (例)「少々お時間をいただいてもよろしいでしょうか?」(許諾)
- ⑬ 答えにくい質問をされて慌てていませんか?質問を理解し, 答えを用意してから発言しましょう。
- ⑭ 答えにくい質問が来たらどうする? 4秒間(ま)をおいてから, 次のいずれかの対応をします。
  - ア「申し訳ありません。失念しておりました。帰宅してからすぐに確認します。」(せめて素直さと意欲だけでもアピール)
  - イ「申し訳ありません。先ほどまで覚えていたのですが, 緊張して忘れてしまいました。後ほど思い出したら答えさせていただきます。」(かなりリスクの高い起死回生の特技。面接試験に失敗したと感じたときに使う最後の手段。ただし, 評価は面接官次第なのでダメ元で)
- ⑮ 「具体的には?」と言われたときには? **例をあげましょう**。特に, **方策の場合は具体的であることが重要**。
- ⑯ 面接が終わった後は? 試験会場の建物を出るまでは気を緩めないようにしましょう。油断大敵。

《**集団討論**》東京都（埼玉県、千葉県、茨城県、山梨県、山形県、横浜市、神奈川県（模擬授業後））等

- ① **集団討論のメンバーは敵ではありません、仲間です。**活発な議論をしてグループ全体でいい結果を出そう。
- ② 司会進行係には敢えて名乗り出ず、議論の流れ中で、事実上の司会進行者になってしまいましょう。
- ③ 問題を見たら、「課題をどう受け止めるか」「どのような解決策があるか」について自分の考えをメモします。方策を考える視点は、「授業内と授業外」「学校内と学校外」などです。
- ④ 討論開始早々は緊張しているので、まずはメンバーの意見に対して質問することから始めます。
- ⑤ **発言するときには手を挙げ、メンバーの確認を取ります。仲間の発言を遮ることは厳禁**です。発言は短めに。
- ⑥ **メンバーの意見を否定しないで、自分の考えを付け加えます。自分が否定されても冷静に対応**します。
- ⑦ 討論時間が半分を超えたころに、タイミングを見て議論を整理します。結論を出す必要はありません。
- ⑧ 予想されるテーマ（以下は、去年の東京都の例。1次試験合格者に知らされます）
  - ア 基本的な生活習慣に関すること
  - イ 他人を思いやる心や生命を尊重する心に関すること
  - ウ 積極的に社会参画できる力に関すること
  - エ 良好な人間関係を築く力に関すること



論文の「柱」と「策」  
思い出しましょう！

《**集団面接**》埼玉県、千葉県、栃木県 等

- ① **個人面接を数人同時に行っていると思えばよい**のです。**他の受験生の答えに動揺しない**こと。他の人と意見がカブっても構いません。それに自分の意見（自分らしさ）を付け加えてよりよいものにします。
- ② 質問の形式は次の通り。
  - ア 「1番の方からどうぞ」(又は 面接官が指名)
  - イ 「考えがまとまった人から挙手してください」
- ③ 上記イの場合、答える順番は2～3番目くらいが無難です。焦るのはよくないですが、最後になるのもキツイです。

《**模擬授業・場面指導**》神奈川県、埼玉県、茨城県、横浜市、さいたま市、山梨県、山形県、大阪府 等

- ① これは、5分間～10分間の**ロールプレイング**です。教師になったつもりで**大きな声で演技してください**。**小聲でぼそぼそ説明するよりも、オーバーアクション(過剰演技)の方がいい**です。
- ② 神奈川県のように授業の単元を選べるなら、教材の工夫で勝負しましょう。事前に学習指導案を添削し、指導してもらいましょう。
- ③ 模擬授業では、開始早々に「本時の目標」を明示します。掲示物が認められているなら「本時の目標」を掲示します。重要なのは生徒とのやり取りです。演技力の見せどころです。(大阪府は5分間で、やり取り禁止)
- ④ 場面指導では考える時間が数分、演技が数分です。面接官にアピールしたいことを明確にし、恥ずかしがらずになりきりましょう。演技に人生がかかっているのは、俳優と同じです。

★ **全員合格を祈念&期待しています！ 頑張ってください。**